赤谷川本谷（裏越ノセン、ドウドウセン登攀）

2012年9月8～10日

メンバー　斉藤（記）、岡崎（M&C）、西本（M&C）、吉仲（無所属）

今年の正月山行で前穂北尾根に行った際に、夏になったらオツルミズ沢に行く事を約束する。7月の頭には日程を固め、8月にはトレーニング山行を済ませたが、肝心な本番直前になり天気予報が思わしくない。オツルミズでは雨に降られると逃げ場が無いと考え、以前より狙っていた赤谷川本谷に私の一存で変更させてもらった。

9/7 夜、前夜泊地に予定している水上の道の駅に向け車を走らせる。出発が少し遅くなってしまった為、一日目に扇沢までの行程と決め、元々、予備日として考えていた3日目までフルに使う予定と決める。道の駅に着くと、早出の必要が無くなった事をいい事に長めの入山祝いが始まる。

9/8 6:00に起床し、眠い眼をこすりながら準備を整えると入山口である川古温泉へと移動する。ヒル避けスプレーを沢靴とスパッツに充分噴きかけ、林道を歩き出す。9月に入ったとはいえ、まだ夏のような暑さで、入渓点であるエビス大黒沢出合に着くと思わず水浴びをする。遡行開始から間も無く、マワット下ノセンが現れる。右岸を小さく巻き、落ち口左の傾斜の落ちたスラブに下りる。続くマワットノセンは私が右壁をフリーで登り始める。ヌメっていて少し怖いが、もう後戻り出来ず、なんとか登りきり、後続にロープを出す。暫く進むと目の前に巨岩帯が広がる。近づくとその一つ一つの岩の大きさに驚く。家ほどもある岩の間を迷路のように縫いながら登る。以外と長く感じる巨岩帯にかなり体力

を消耗させられた。

裏越ノセンＦ滝

上、マワット下ノセン　下、マワットノセン

右岸に100m以上もある垂壁が現れると正面に初日のハイライト裏越ノセンが立ちはだかる。ハングした正面には弱点が無く、少し戻り左岸の草付きを一段上がり、私のリードで草付きバンドから取り付く。スタンスは有るが、高度感が有り足がすくむ。トラバースの後、少しクライムダウンして、浅い洞穴状のテラスでビレイする。2P目は岡崎さんにリードを換わる。Ｆ滝落ち口の上を右岸へと渡り、リッジに沿って直上する。

裏越ノセンＥ滝

ヤブ交じりをもう1P登るとＢ滝の上へと出た。そこでロープを解き、Ａ滝の右壁ルンゼをフリーで越え、裏越ノセンの登攀が終わった。続く4m滝は右壁バンドからフリーで越え、右岸から扇沢が出合うと、暫くぶりの開けた河原となる。小滝で出合う扇沢のすぐ脇にブルーシートを張り、テン場とした。テン場から細い水流を渡ったナメ床の中洲で焚き火をする事が出来た。中々居心地が良く酒も進む。そうこうしている内に突然、雨が降り出し、ブルーシートの下へと避難する。

扇沢出合のテン場

しょうがなくシュラフに潜り眠りに入る。暫くした後、西本さんに起こされると、増水して、寝ている場所のすぐ数十センチの所まで水流が迫っていた。これはマズイと沢靴に履き替えいつでも動ける状態に整え、膝を抱えてひたすら水位を監視する。すぐ脇に落ちている昼間にはチョロチョロ程度であった扇沢の水流は、轟音をたてている。そろそろエスケープの為に、草付きを登りロープを張りに行こうかと考えていたら、ようやく雨が止んだ。水位が下がり始めたのを確認すると、沢靴を履いたままシュラフに潜り込む。

9/9 5:00 に起床し、6:50 霧の立ち込める中、遡行をスタートする。スタート直後から深い淵の通過を強いられる。

朝から水風呂？

体が温まる間も無く、奥に 7m 滝が現れその手前には長い廊下状の淵が立ちはだかる。迷わず、右岸から巻きにかかる。草付きをトラバースした後、適当な木から懸垂下降し、草付きから抜け出すと、ドウドウセン G 滝が目の前に現れる。あまりの悪相に、思わず下降の手を止め唖然とする。続くメンバー3 人共が、全く同じように下降途中に G 滝を見つめ固まっている姿は、下から見ていて思わず笑ってしまった。下降着地点の丁度対岸より取り付き、いよいよドウドウセンの登攀をスタートする。

ドウドウセン G 滝

クラックから始まる斜上バンドの 1P 目は岡崎さんにリードをしてもらう。核心と思われるトラバース部分には、前日の雨のせいか、染み出しが有り、いやらしそうだ。私はセカンドで取り付くが、トラバースでスタンスとなる前傾スラブのフリクションが効かず、踏み込まない。バイルとスリングで A1 を駆使して突破する。リングボルトのあるビレイ点に 4 人が集合すると、数メートル先のクラッ

クの脇にビレイ点を移動させ、再び岡崎さんのリードで、クラックに取り付く。山行通しての核心であるこのピッチはヌルヌルのクラックから始まり、悪い草付きを直上する。メンバー全員がアクアステルスの沢靴を履いて来た為、ヌメりには勝てず、下部のクラックはカムエイドで突破した。ハーケンを打てる所の少ない草付きスラブがまた悪い。全く決まって無いハーケンの後、ランナウトをして登って行く。正直、私がリードでなくて、良かった、と思ってしまった。そこからヤブを2P 登った後、5m 程の懸垂下降で D 滝の上に降り立つ。そこから私のリードで、対岸に渡り右岸のリッジをヤブのテラスまで上がりピッチを切る。テラスから懸垂下降出来そうな木を目指して 7～8m トラバースする。クライムダウンを交えたトラバースをした後、足元の木から 15m の懸垂下降で C 滝上に降り立つ。フリーでB滝の釜まで小滝を越える。

ドウドウセン C 滝

B 滝より下流を望む

B 滝と A 滝左壁

私は右壁があまりにヌルヌルなので釜を泳いで右岸ルンゼに取り付くが、滑って中々上がれない。スカイフックを使ってルンゼを這い上がり、左壁を水流に向かって右上していると他のメンバーはすでに右壁を A1 で突破していた。続けて快適なA滝右岸リッジを登り、ドウドウセンの登攀を完了した。それまでの大ゴルジュ帯から一転、そこは、360 度開放的な明るい河原が広がっていた。長いこと憧れていた登攀を終えた喜びが溢れる。テントを何十張りでも張れそうな絶好のテン場適地だが、翌日の行程も考えて、その日の内にもう少し先の 6m 滝まで越えておこう、という事になった。6m 滝を右岸から高まき越えた後、良さそうなテン場を見つけ行動を終了する。念願のドウドウセンを終え、最高のロケーションの元での焚き火は一際楽しいものだった。

9/10 後は何の心配も無い、開放感いっぱいの沢をオジカ沢の頭へと登りつめるだけだ。前日までとは全く違う景色を楽しみながらの遡行に癒される。いつになったら高度を上げるんだと心配するが、やがて傾斜も急になり、息が上がり始める。真っ直ぐ上へと伸びる細い沢潟が笹ヤブに消えると緩やかな笹原の尾根へと上がる。北へと上がる尾根を一登りで避難小屋へと出た。風が強い為、小屋の中で登攀具をザックに詰め込みながら、休憩を取る。休憩後、小屋を出ると一面に広がる霧が

見る見る内に消え去り、一変、そこには青空の下での大パノラマが広がっていた。どこまでも続く稜線は一面の笹に覆われ、風に揺らぐ笹の葉は、陽の光をキラキラと反射させて大海原のよう。右に左にとよそ見をしながらの下山となる。充実感の大きい山行であった為か、下山しながらの話も弾む。最後の林道ではヒルのお蔭も有り一際賑やかであった。

気持ちのいい稜線

赤谷川本谷では、裏越ノセン、ドウドウセンを登る事で極めて価値の高い遡行を楽しむ事が出来た。登攀という部分だけに目を向けるのでは無く、オジカ沢の頭まで通して完成された美しいルートであると思う。私自身この山行を終え、沢登り、山登りをさらに好きにさせられた。ドウドウセンの登攀はパーティーそれぞれの登り方を楽しめると思うので、もっと登られてもいいと思う。お勧めの１本として、是非、多くの人に楽しんでもらいたい。きっと、ワクワクさせられる遡行が待っている事と思う。

この三日間を共にした素晴らしい仲間に感謝！

9/8 川古温泉 7:20～8:30 金山沢出合～9:30 エビス大黒沢出合入渓 10:00～12:20 裏越ノセン下13:00～15:40裏越ノセン上～15:50扇沢出合 BP

9/9 BP6:50～8:00 ドウドウセン下～14:30 ドウドウセン上～15:30BP

9/10 BP6:35～9:00 オジカ沢の頭避難小屋 9:35～16:00川古温泉

ドウドウセン

10段 100m
9/9 8:00～14:30

右岸ルンゼ(Ⅲ+A1)または
右壁(Ⅲ+A1)～右岸リッジ(Ⅲ)

A滝 5mトイ状

B滝 4m

水流を渡りリッジ～ヤブテラス(Ⅲ)
7～8mバンドトラバース
15m懸垂～C滝上

小滝×2

C滝2段10m

ブッシュ帯直上～
懸垂5m～ルンゼ状を
沢床に下降

D滝2段9m

小滝

ブッシュ帯直上

E滝 5m
トイ状

F滝10m

クラック～草付スラブ、共に悪い
(V A1)

G滝2段
45m

クラック～斜上バンド
ビレイ点にボルト有
(IV)

裏越ノセン

6段 70m
9/8 13:00
～15:40

A滝 4m 3条 右壁ルンゼ
ノーロープ

B滝 2m 3条

C滝 4mトイ状

ヤブ～B滝上へ(Ⅲ)

D滝 10mトイ状

水流を渡り右岸リッジ～ヤブ(Ⅲ)

E滝 25mトイ状

草付きを一段上がり
バンドを左上、浅い洞穴状
テラスでビレイ
板群の高度感(Ⅲ+)

F滝 25mヒョングリ

圧倒的な高さの側壁